



ふるさと館 ニュース



飯山市ふるさと館

〒 389-2253

飯山市大字飯山 1434-1

電話：0269-67-2030

FAX：0269-67-2030

e-mail: furusato@city.

iiyama.nagano.jp

ご案内

【開館時間】

9:00 ～ 18:00

※入館は 17:30 まで

【休館日】

月曜日、年末年始

※祝日の場合は火曜日

【入館料】

大人 200 円

子ども 100 円

※市内の小中学生と
同伴の保護者は無料

今月の文化財



黒岩山（国天然記念物）

黒岩山は、絶滅の危機にある
ギフチョウとヒメギフチョウが
混棲する貴重な場所です。

他にもモリアオガエルが生息
し、ユキツバキやミズバショウ
もみられる山ですので大切にし
ましょう。

ふるさと館収蔵展

「紙芝居の歴史」



飯山市ふるさと館では、
収蔵展「紙芝居の歴史」を
開催しています。絵の描か
れた画面を次々と抜きなが
ら演じていくという、現在
のスタイルの紙芝居のはじ
まりは関東大震災後の東京
の街頭においてといわれて
いますが、今回は戦時中の
紙芝居を主に展示いたしま
す。

今の子ども向けの紙芝居
とは少し違い、国民教育色
が強く、当時の世相を反映
した紙芝居となっておりま
すので、この機会に学習し
てみてはいかがでしょうか。

◇期間：3月11日（火）

～3月30日（日）

◇場所：飯山市ふるさと館

肉山紙で作られた

ドレスを展示しています



飯山市ふるさと館で展示中

このドレスは、いいやま
匠大学和紙工芸科におい
て、文化女子大学の学生が
伝統的工芸品の肉山紙を
使用し製作したもので、色
鮮やかで素敵なドレスを5
点展示しています。肉山紙
の可能性を感じさせてくれ
る作品です。

総合学習センター講演会

『もつと知ろう鳥踊り』

カラス踊りの深層に迫る

北信濃の誇れる伝統芸能が、日本ばかりでなく、
国際的な広がりの中で成立したことを、スライド
を交えながらわかりやすくお話いただきます。

■講師 信州大学名誉教授 村杉 弘 先生

■日時 平成20年4月20日（日）午後2時から

■場所 飯山市公民館 講堂（入場無料）

主催 総合学習センター 主管 飯山市からす踊り保存会

寄贈資料一覧

12月～2月

▽岡本 順子 様

雛人形（S12・S39）、子供
用着物 傘

▽山本 光男 様

手動式消毒ポンプ、養蚕用
桑切り機、スキー板

▽関口 さく子 様

着物・袴（明治時代）

▽牧野 実隆 様

箱ざり

▽丸山 和子 様

雛人形（S48）

▽岩崎 彌 様

唐箕、縄綱い機

▽手塚 良治 様

雛人形供膳具、古文書類、
婚礼用盃、提灯金具、市関

係資料、「世界画報」冊子

※ふるさと館では、当館で所蔵
していない資料の寄贈を随時受
け付けております。寄贈いただ
いた資料は、大切に保存・活用
させていただきます。

シリーズ 飯山を語る No.8

飯山で

ブナの森の研究をしています



ブナの森が近所にある
から・・・これが、私が
飯山に移り住もうと思っ
た理由の一つです。こちら
に移り住んだのが5年前、
研究所として通い始め
たのはもつと前で、かれこ
れもう10年が経ちました。

ご存じ、ブナの森は飯
山を代表する自然です。
ブナの森自体は日本中に
あるのに、なぜ飯山なのか。
なぜなら、それが人の定
住地としては世界一の豪雪
地にあるブナの森だから
です。

『オメさ、なんでこげな
ゆぎの多えとこ、来たん

ださ？。こちらに住ん
でからというものの、しよっ
ちゆうこう聞かれます。
それと同様、私は、ブナ
の森に対して同じ問いか
けをしているようなもの
です。『なぜこんな雪が
多いのに立派な森になれ
るのか？』と。

ブナの森が豪雪地に
成立できるのは、ブナが
雪の圧力に対して「しな
やかさ」を持ち合わせ
ているからと考えられま
す。通常、雪の下で細い
樹木はだいたいグニャッ
と押し曲げられていま
す。この状態ですと、直
径10センチ程度まではど
の樹木も折れることはほ
とんどありません。ここ
ろが、太き15～20セン
チともなると、雪の圧力
に耐えられず折れたり
割れたりしてしまいます

が、ブナはしなやかに曲
がつてその圧力に耐え、
春になり雪が融けると元
に戻って直立します。こ
うして、他の木が折れた
り曲がつたりして大きく
なれない代わりに、雪の
圧力に強いブナがたくさ
ん大きくなって森をかた
ちづくつていると考えら
れます。

飯山のブナの森には、
もう一つ驚くべき事実が
あります。それは、人々
がブナの木々を様々な用
途に使いながら、森を繰
り返し再生させていたこ
とです。一般的にブナは
水分が多く腐りやすい
ため使い道のない木と言
われていますが、その常
識が豪雪地では一切当て
はまりません。かつては
炭や薪といった燃料とし
てはもちろん、民家の柱

信州大学教育学部

森林生態学研究室

准教授

井田 秀行

